

新宮川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～紀伊半島大水害の再度災害防止に向けた治水対策推進～

- 熊野川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町村が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
【短期】 新宮市街地や紀宝町市街地での浸水被害を軽減するため、河道掘削を実施するとともに、利水ダムによる治水協力の効果も発現を図る。
【中長期】 短期の取組を引き続き推進するとともに、流域内のあらゆる関係者と連携し、流域全体の安全度向上を図る。
- 熊野川流域は日本でも有数の多雨地帯であり、局所的な大雨が多発する地域でもある。そのため、内水被害軽減対策（雨水ポンプ場や雨水貯留施設の整備等）や、森林整備、砂防事業、治山事業による雨水・土砂流出抑制対策を進める。

区分	対策内容	実施主体	工期	
			短期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	【洪水氾濫対策】 一級河川における改修（河道掘削、堤防強化、護岸整備、輪中堤等）	紀南河川国道事務所、三重県、和歌山県	→	
	【洪水氾濫対策】 準用河川における改修（河道掘削 等）	熊野市	→ 柳谷川における河道掘削完了	
	【流域の雨水貯留機能の向上】 森林整備	近畿中国森林管理局、津水源地整備事務所、和歌山水源地整備事務所、奈良水源地整備事務所、三重県、奈良県、和歌山県	→	
	【流域の雨水貯留機能の向上】 治山事業	近畿中国森林管理局、三重県、奈良県、和歌山県	→	
	【流水貯留機能の拡大】 利水ダム等、事前放流の実施・体制構築	紀の川ダム統合管理事務所、三重県、奈良県、和歌山県、電源開発(株)、関西電力(株)など	→	
	【土砂災害対策】 砂防事業	紀伊山系砂防事務所、三重県、奈良県、和歌山県	→	
	【流域の雨水貯留機能の向上】 校庭貯留	新宮市	→ 校庭貯留設備整備完了	
	【内水氾濫対策】 排水施設（排水機場等）の整備（増設）	紀南河川国道事務所	→ 市田川排水機場増強完了	
	【内水氾濫対策】 雨水ポンプ場の整備	新宮市	→	
	被害対象を減少させるための対策	【水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫】 土地利用規制・誘導（災害危険区域等）	田辺市、新宮市、紀宝町	→
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	【避難体制等の強化】 地区タイムラインの活用	紀宝町	→	
	【避難体制等の強化】 防災教育・啓発活動等の推進	紀南河川国道事務所、和歌山地方気象台、奈良地方気象台、津地方気象台、三重県、奈良県、和歌山県、新宮市、熊野市、五條市、紀宝町	→	
	【土地の水災害リスク情報の充実】 水害リスク空白域の解消	三重県、奈良県、和歌山県	→	
	【土地の水災害リスク情報の充実】 水害リスクマップ（浸水頻度図）の整備	紀南河川国道事務所	→	
	【避難体制等の強化】 洪水ハザードマップの作成・周知及び住民の水害リスクに対する理解促進の取組	熊野市、田辺市、新宮市、紀宝町	→	
	【避難体制等の強化】 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	流域の県・市町村	→	
グリーンインフラの取組	河口干潟の保全、磯河原の保全、権現河原の歴史景観保全	紀南河川国道事務所	→ 河川改修事業において保全	
	新宮地区かわまちづくり（池田港地区）（整備済）	紀南河川国道事務所、新宮市	→ ~R4モニタリング 更なる利活用の検討 継続実施	
	小中学校における環境学習	紀南河川国道事務所	→ 継続実施	
	堤防除草における刈草の有効活用	紀南河川国道事務所	→ 継続実施	
	水源林造成事業による森林の整備・保全	和歌山水源地整備事務所	→ 森林整備による公益的機能の高度発達	
	森林整備による多面的機能（水源涵養・生物多様性）の保全	奈良県	→ 森林整備による多面的機能の保全	



【事業費（R2年度以降の残事業費）】

■河川対策	全体事業費 約7.81億円 ※1
対策内容	河道掘削、輪中堤 等
■砂防対策	全体事業費 約4.75億円 ※2
対策内容	砂防堰堤整備、地すべり対策 等
■下水道対策	全体事業費 約7億円 ※3
対策内容	雨水ポンプの整備 等

※1： 国及川流域の河川整備計画（案）の事業費を記載
 ※2： 国砂防事業の事業費を記載
 ※3： 各市町における下水道事業計画の事業費を記載

※ スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。
 ※ 自然再生については、河道掘削に併せたモニタリングを継続し、必要に応じて実施する。